

2009年度 決算概要

2010年5月31日

株式会社 大阪チタニウムテクノロジー - ズ

0

目 次

2009年度 決算実績

2010年度 業績予想

足元の市場環境

1

2009年度 決算実績

2009年度 決算実績

(レート)	08年度実績 (101円/\$)	09年度実績 (93円/\$)	増減 (8円/\$円高)	<参考> (百万円)	
				09年度 10/1予想	増減
売上高	52088	31908	20180	31800	+ 108
営業利益	14693	1563	13130	1300	+ 263
営業外損益	520	1128	607	1100	28
経常利益	14173	435	13737	200	+ 235
特別損益	424	64	+ 359	50	14
税引前当期利益	13748	370	13377	150	+ 220
当期純利益	8247	124	8123	100	+ 24

(注) 営業外損益：うち休止設備償却費
 08年度実績 173百万円
 09年度実績 867百万円

特別損益：固定資産除去損
 08年度実績 406百万円
 09年度実績 64百万円

売上高の増減

(億円)

		08	09	増減	内容
チタン事業	国内	244	104	140	数量減 126 価格down 40 (展伸材 及び 鉄鋼添加用) 為替レート 7 (101 93円/\$)
	輸出	118	85	33	
	計	362	189	173	
半導体・高機能材料事業		159	130	29	価格down 27 (多結晶シリコン) 為替レート 2 (101 93円/\$)
合計		521	319	202	数量減 126 価格down 67 為替レート 9 (101 93円/\$)

4

営業利益の増減

(億円)

	08	09	増減	販売数量 構成	販売価格	レート	コスト
チタン事業	90	16	106	73	40	5	償却 7 開発費 +4 その他 +15 } +12
半導体・高機能材料事業	57	32	25	2	27	2	償却 +1 開発費 +2 その他 +3 } +6
合計	147	16	131	75	67	7	償却 6 開発費 +6 その他 +18 } +18

5

B / Sの概要

「総資産」:前年度末比 26億円の減 (09/3E 969 10/3E 943億円)

資産の部	流動資産 30億円減		
	<ul style="list-style-type: none"> ・手許資金の減 6億円 ・売上債権の減 33億円 ・棚卸資産の増 + 11億円 		
	固定資産 +4億円増		
	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の増 + 5億円 		
負債及び資本の部	負債の部 9億円減		
	<ul style="list-style-type: none"> ・借入金(リース債務含む) + 75億円 ・買入債務の減 29億円 ・設備未払の減 44億円 ・未払法人税等の減 13億円 	(10/3E借入残高 375億円)	
	純資産の部 17億円減		
	<ul style="list-style-type: none"> ・利益剰余金の減 16億円 		
自己資本比率 (09/3E) 48.7% (10/3E) 48.2%			

6

C / Fの概要

		(億円)	
		08年度実績	09年度実績
	税前償却前利益	+ 242	+ 121
	税支出	90	17
	その他	20	2
営業活動によるC / F		+ 132	+ 102
	有形固定資産取得	299	164
	その他	2	1
投資活動によるC / F		301	165
	新規借入(リース含)	+ 226	+ 100
	返済(リース含)	4	25
	配当金	31	18
財務活動によるC / F		+ 191	+ 57
現金及び現金同等物増減		+ 22	6

手許資金残高 (08/3E) 11億円 (09/3E) 33億円 (10/3E) 27億円

7

2010年度 業績予想

8

多結晶シリコンの減産について

1. 経緯

- 1984～ 尼崎工場稼働
 蒸留プロセスにおける蒸留塔は「労働安全衛生法 ボイラー及び圧力容器安全規則」、また、トリクロロシランの取り扱い設備については、「消防法 危険物の規制に関する政令・規則」にて申請し、26年間無事故操業
- 2010.4.28 業界他社の多結晶シリコン工場蒸留プロセスにおいて中間物のトリクロロシランが高压ガス保安法に抵触し、県の指導により操業停止するとの発表あり
- 4.30 当社チェックの結果、同様の事態が判明し兵庫県に届出 以降安全な停止計画を策定した上で、段階的に設備停止作業を進め、5月21日に完全操業停止
- 5.31現在 兵庫県の指導を受けつつ、高压ガス保安法に対応するよう設備改善に取り組み中

(参考)

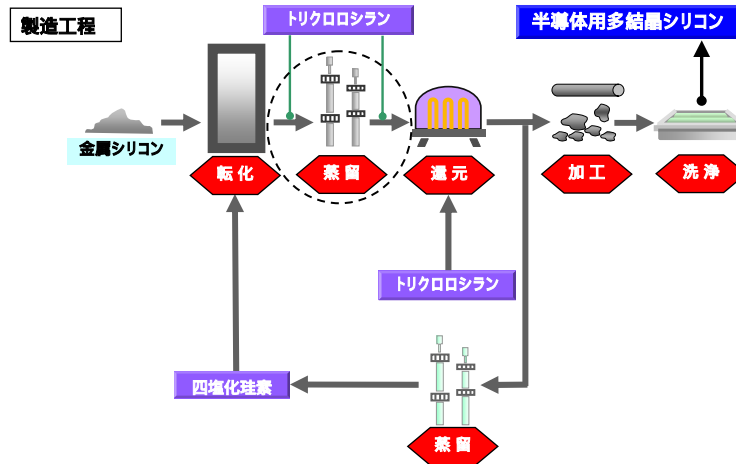
- (1) トリクロロシラン: 金属シリコン、水素、四塩化珪素の反応により製造され、多結晶シリコン (SiHCl₃) の製造工程で生成される中間物

$$\text{Si} + 2\text{H}_2 + 3\text{SiCl}_4 \rightarrow 4\text{SiHCl}_3$$
- (2) 高压ガスとは : ・常温で圧力が1メガパスカル以上の状態にある圧縮ガス(一般的)
 (主な定義) ・常温で圧力が0.2メガパスカル以上の状態にある液化ガス 今回抵触
 * 液化ガス: 大気圧における沸点が40 以下のもの が判明
 (トリクロロシラン: 沸点31.8)

9

多結晶シリコンの減産について

2. プロセスフロー



10

多結晶シリコンの減産について

3. 今後のスケジュール

尼崎工場

- ・現時点での操業再開時期：8月末目標
- ・操業再開時の生産水準は、最速立上げを目指し高圧ガス保安法の制約の範囲内である
年産900トンレベル(従来能力1500トン)
- ・今後、関連法令を遵守しつつ増産リカバリー策を検討していく

岸和田工場

- ・岸和田工場も大阪府の指導を受け、高圧ガス保安法に対応するよう設備改善に取り組み中
- ・完成時期に若干の影響が出る可能性あり
- ・完成後能力は計画通り年産2200トン

11

多結晶シリコンの減産について

4. 業績影響

	10/ 上期	下期	(億円) 計	
売上高	29	30	59	生産減
営業利益及び経常利益	1	+ 6	+ 5	操業再開時の生産水準減 及び岸和田償却減
特別損益	13		13	操業停止損
税引前当期利益	14	+ 6	8	

12

2010年度 業績予想

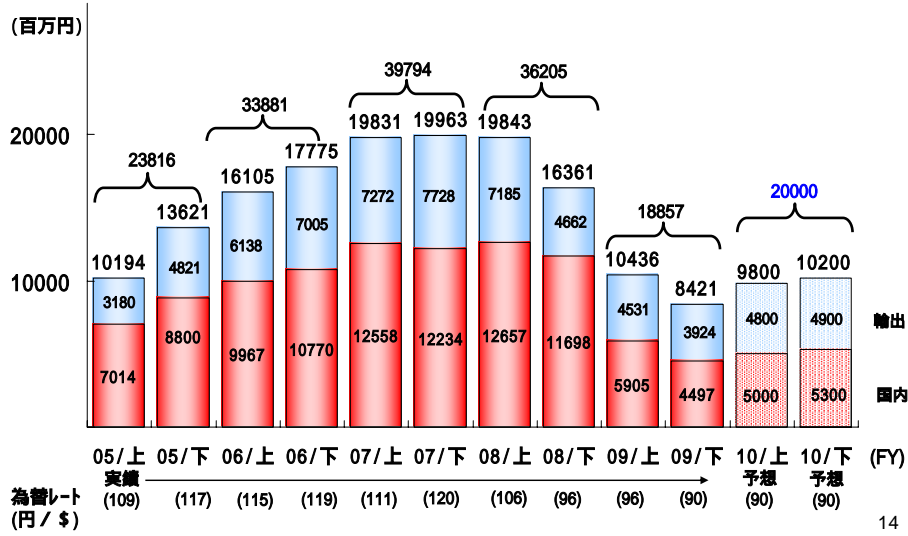
	09年度実績	10年度予想			(百万円)
		上期	下期	計	09年度 10年度
売上高	31908	12500	14000	26500	5408
営業利益	1563	1200	1100	2300	3863
営業外損益	1128	400	600	1000	+ 128
経常利益	435	1600	1700	3300	3735
特別損益	64	1500	0	1500	1435
税引前当期利益	370	3100	1700	4800	5170
当期純利益	124	1900	1000	2900	3024
(為替レート)	(93円/\$)	(90円/\$)	(90円/\$)	(90円/\$)	(3円/\$円高)

(注) 営業外損益 : うち休止設備償却費 09年度実績 867百万円
10年度予想 550百万円

特別損益 : うち多結晶シリコン
操業停止損 09年度実績
10年度予想 1300百万円

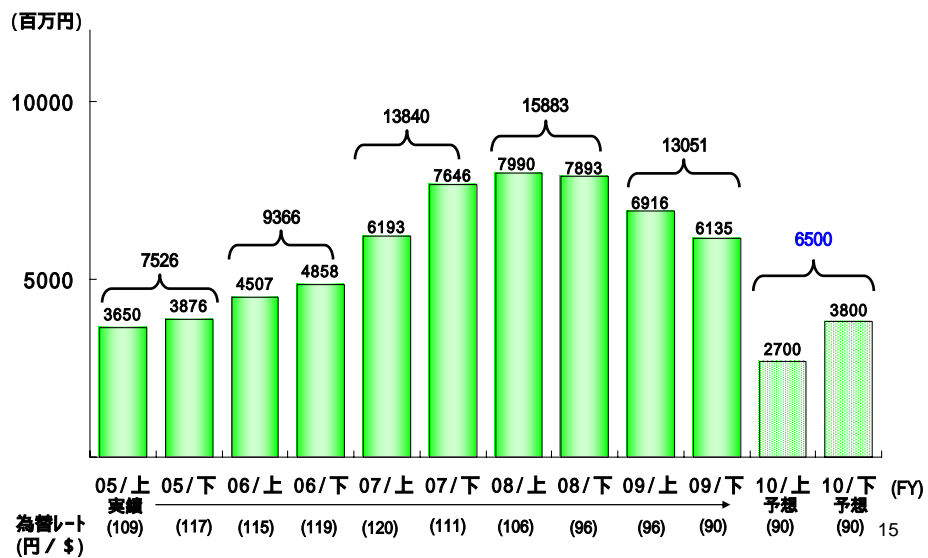
13

10年度売上高/チタン事業



14

10年度売上高/半導体・高機能材料事業



15

売上高の増減

(億円)

		09	10	増減	内容
チタン事業	国内	104	103	1	数量増 + 49 価格down 35 (展伸材 40、鉄鋼添加用 +5) 為替レート 3 (93 90円/\$)
	輸出	85	97	+ 12	
	計	189	200	+ 11	
半導体・高機能材料事業		130	65	65	数量減 54 価格down 10 (多結晶シリコン) 為替レート 1 (93 90円/\$)
合計		319	265	54	数量減 5 価格down 45 為替レート 4 (93 90円/\$)

16

営業利益の増減

(億円)

	09	10	増減	販売数量 構成	販売価格	レート	コスト
チタン事業	16	15	+ 1	+ 16	35	2	償却 + 23 その他 1 } + 22
半導体・高機能材料事業	32	8	40	24	10	1	償却 ± 0 その他 5 } 5
合計	16	23	39	8	45	3	償却 + 23 その他 6 } + 17

17

利益配分に対する方針

配当方針

将来に亘り企業価値の向上を図るべく

- ・経営基盤の強化
- ・株主に対する利益還元を経営の最重要課題と位置づけ

利益の配分に関し、

- ・持続的成長のための投資と財務体質の安定・強化に必要な内部留保の充実
- ・株主への配当については、安定性に配慮しつつ業績連動を基本に拡充

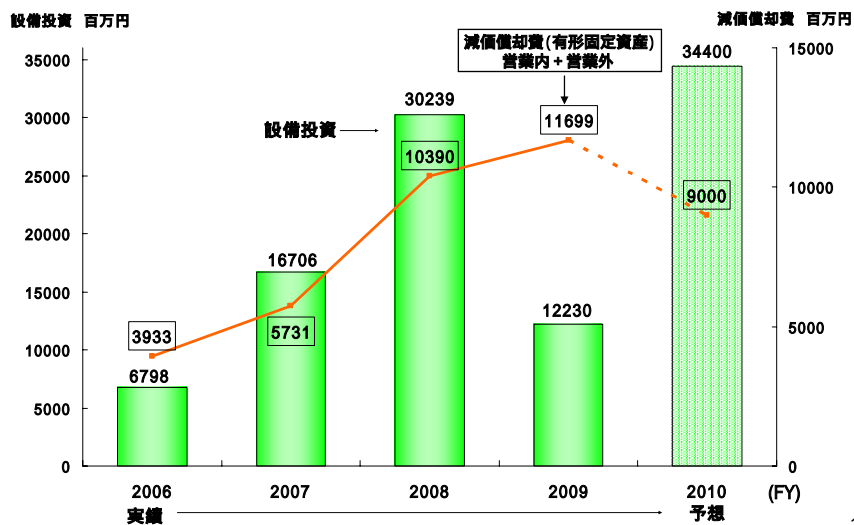


	当期(10/3月期)実績	次期(11/3月期)予想
中間	7.5円/株	
期末	7.5円/株	10円/株
年度	15円/株	10円/株

18

(参考)

設備投資(土地除く)と減価償却費

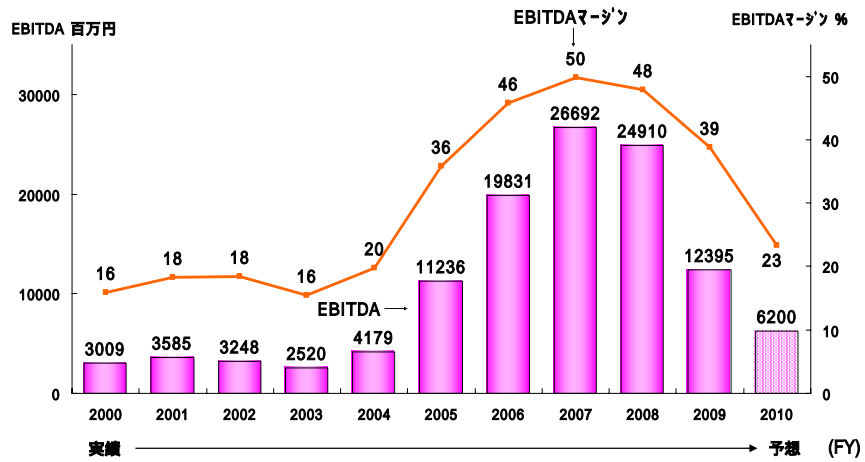


19

(参考)

EBITDA及びEBITDAマージン

〔 EBITDA : 営業利益 + 償却費(営業内)
EBITDAマージン : EBITDA / 売上高 〕



20

足元の市場環境

- (1)チタン事業
- (2)半導体・高機能材料事業

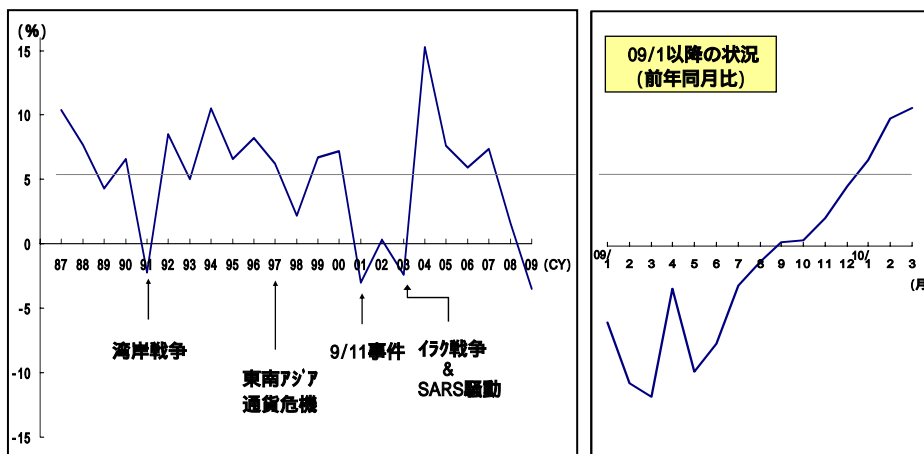
21

市場動向

	足元の状況	中期計画の想定
輸出航空機用 展伸材市場	エンジン分野を主体に在庫調整 進展、出荷量回復へ ↓ SPOTの引合い、年契分の追加・ 出荷前倒し要求 中期計画想定を上回る水準	B787等の新型機の比率UPに より着実に需要増加
国内展伸材市場	上期にて在庫調整ほぼ終了 10年下期より実需見合いに回復 し、09年度比2ケタ増へ 中期計画想定を上回る水準	世界経済の回復に伴い、なだら かに需要回復も在庫調整影響に より09 10は横ばい
鉄鋼添加材市場	鉄鋼生産の回復により需要増加 顕著 スポンジチタンの減産継 続により需給タイト化・市況価格 UP	世界経済の回復に伴い、なだら かに需要回復

22

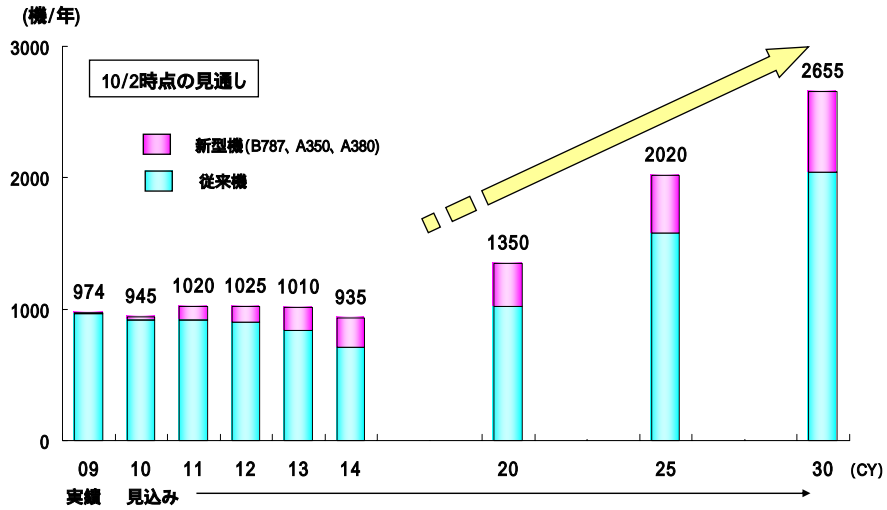
輸送量(有償旅客距離)の伸び率(対前年)



出典：IATAデータ

23

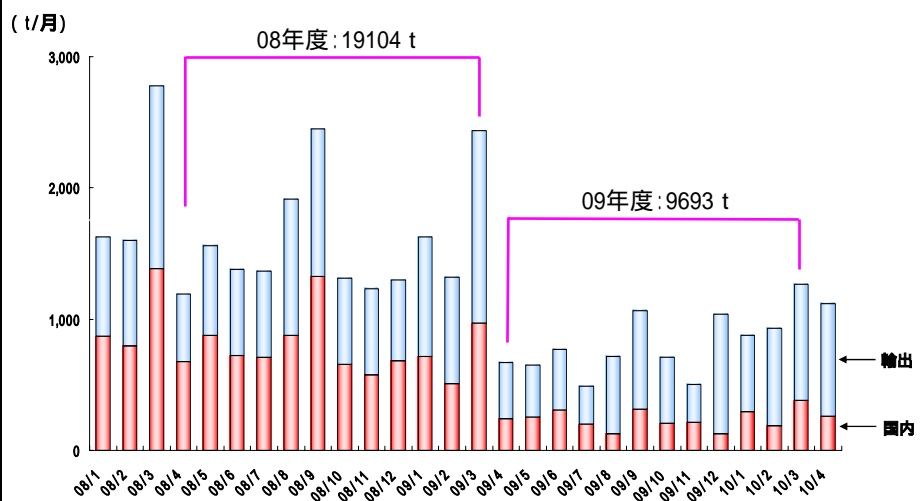
民間航空機デリバリー機数展望 (ホーキング+エアバス)



出典: Air Line Monitorデータ

24

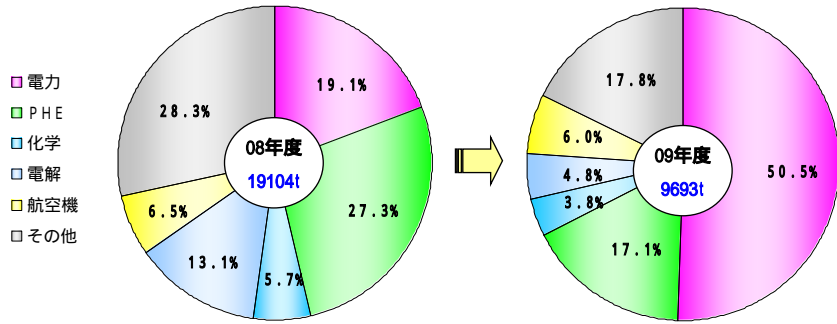
国内展伸材の出荷実績 (月別)



出典: 日本チタニウム協会データ

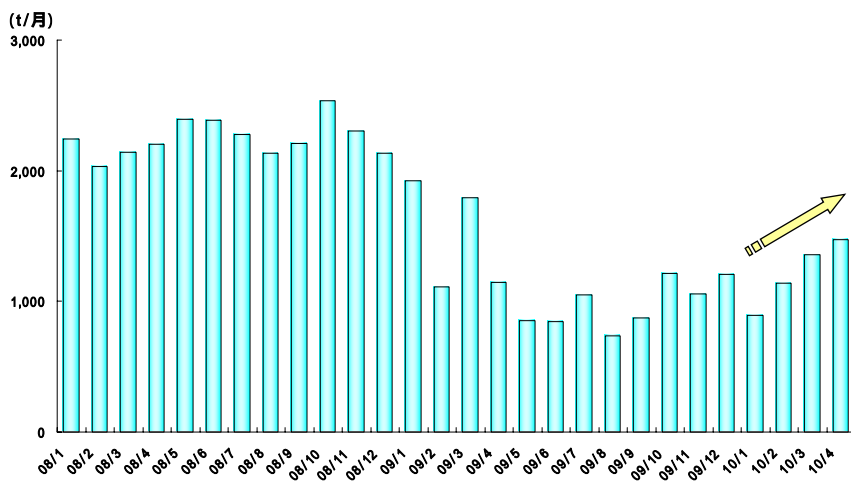
25

国内展伸材の用途別出荷実績比率(08vs09)



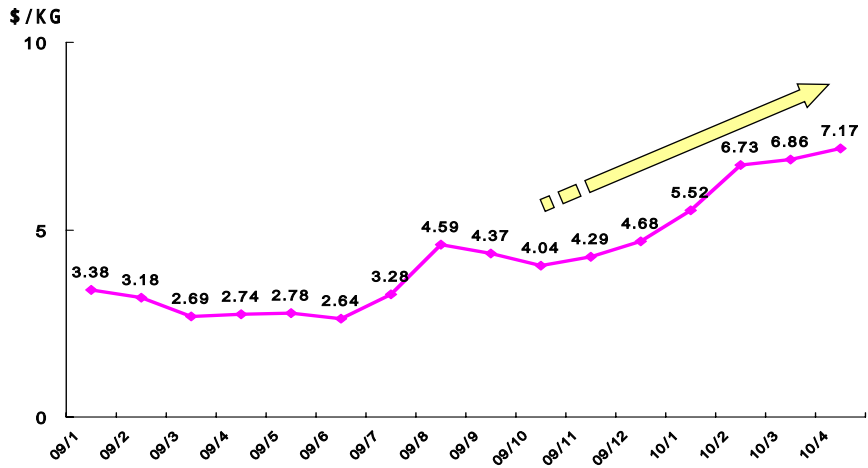
出典:日本チタン協会データ

国内インゴット生産量実績



出典:日本チタン協会データ

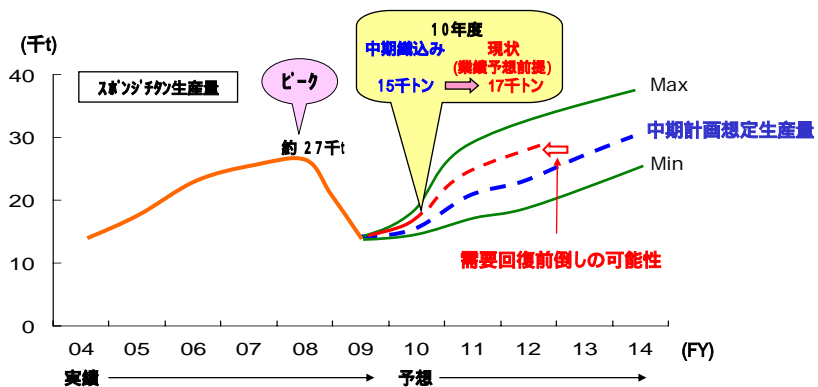
FeTi市況推移



出典: Metal Bulletinデータ

10年度当社の生産対応

足元の状況を踏まえ、10/1月及び3月と徐々に減産緩和

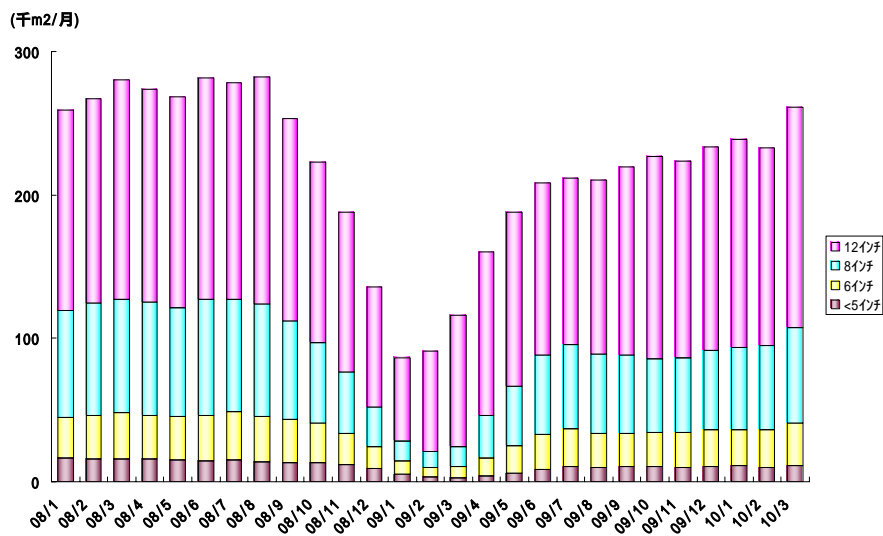


市場動向

	足元の状況	中期計画の想定
半導体市場	半導体需要回復 特に、DRAM・メモリー等での回復 顕著	世界経済の回復とともに着実に需要回復
・多結晶 シリコン需要	シリコンウェ-ハの生産回復に伴い 消費量増加 太陽電池需要増大 もあり、10年初を底に価格反転	
・高純度チタン	メモリー需要増加に伴い需要増加 基調定着 半導体各社によるメモ リーへの大型投資再開を踏まえ、 下期以降、更に増加の見込み	

30

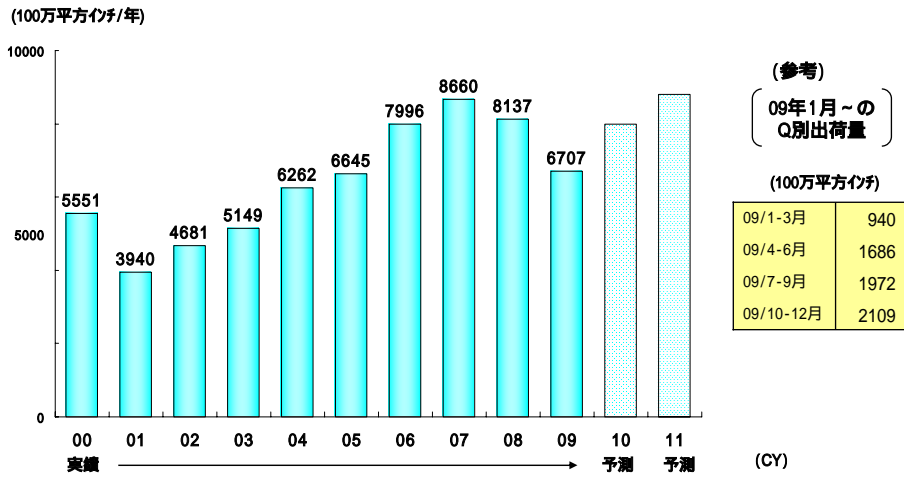
シリコンウェ-ハ生産量(国内)



31

出典：経済産業省統計データ

シリコンウェ - 八出荷面積(全世界)



終了

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、不確定要素を含んでおります。このため、様々な要因により、実際に生じる結果が予測内容と異なる可能性があることをご承知下さい。本資料利用によって生じるいかなる結果につきましても、当社が責任を負うものではありません。